



吉田美穂さん(1994年生まれ)

西尾高校出身

愛知学院大学 心身科学部健康栄養学科卒業

岡崎市役所

岡崎市十王町2-9

<https://www.city.okazaki.lg.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→MOSを取得→公務員採用試験に合格→市役所に入所→保育課に配属

野球部のマネージャーとして、高校時代は部活に明け暮れています。他校からマネージャーは高校の顔としても見られるので、顧問の先生からは日常生活も含め厳しく指導していただきました。言葉づかいや立ち振る舞い、礼儀など、社会人の基礎を部活から学ぶことができたと思います」

「野球部のマネージャーとして、高校時代は部活に明け暮れています。他校からマネージャーは高校の顔としても見られるので、顧問の先生からは日常生活も含め厳しく指導していただきました。言葉づかいや立ち振る舞い、礼儀など、社会人の基礎を部活から学ぶことができたと思います」

「野球部のマネージャーとして、高校時代は部活に明け暮れています。他校からマネージャーは高校の顔としても見られるので、顧問の先生からは日常生活も含め厳しく指導していただきました。言葉づかいや立ち振る舞い、礼儀など、社会人の基礎を部活から学ぶことができたと思います」



18歳

↓
22歳↓
27歳高
等
専
修
学
校

野球部のマネージャーとしての活動から、社会人の基礎を学ぶ。

愛知学院大学に進学し、スポーツ栄養学について学ぶ。大学卒業後、岡崎市役所へ。

「市民のため」という意識を大切にし、日々の仕事に取り組む。

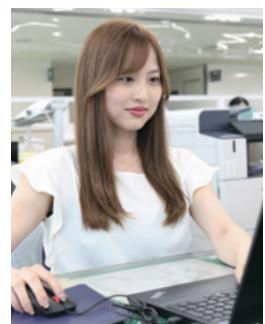
先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

様々なサービスを提供し、市民の生活をよりよくする仕事。

—学生時代

—メッセージ



「各自治体が実施している公務員採用試験に合格する必要があります。まずは、自分自身を知ることから始めてみてください。自分の強みを理解し、それをわかりやすく相手に伝えることを直接試験では意識しました。高校時代、勉強することはもちろん大事。でも、いろいろな人と関わって刺激を受けることも大事です。様々な経験をして、それを財産にしてください。遊ぶことも部活に励むことも、何事にも全力で取り組むことが高校生にとって一番大切なことだと思います」

「市役所が企業と違うのは、市民の税金を預かって常に市民をサポートするサービスを提供しているところ。常に『市民のため』という姿勢は忘れないようにしています。どこかの部署に配属されたとしても、市民の生活をよりよくすることが私たち市役所職員の仕事だと思っています」

「助かったよ」とか『ありがとうございます』という言葉をいたたくとやりがいを感じます。心配事があって相談に来た市民の方が、安心した表情で帰るときもうれしいですね。ここまでいつも人対人のサービスに変わらないので、市役所の人間として恥ずかしくないコミュニケーションを意識しています」

—仕事について

「岡崎市役所で働きはじめて、現在6年目です。1年目は保健所の健康増進課に配属されました。市民の方に向け、食事や栄養の大切さについて知つてもらう食育イベントの運営などをおこないました。大学で学んだ知識が役立つ場面も多かったです。現在は異動して保育課で働いています。部署が変わると仕事ががらっと変わるので、最初は本当に大変です。保育園と幼稚園の違いもわからなかつたので、1から勉強を

べて取得しました」

「野球部のマネージャーとして、高校時代は部活に明け暮れています。他校からマネージャーは高校の顔としても見られるので、顧問の先生からは日常生活も含め厳しく指導していただきました。言葉づかいや立ち振る舞い、礼儀など、社会人の基礎を部活から学ぶことができたと思います」

「野球部のマネージャーとして、高校時代は部活に明け暮れています。他校からマネージャーは高校の顔としても見られるので、顧問の先生からは日常生活も含め厳しく指導していただきました。言葉づかいや立ち振る舞い、礼儀など、社会人の基礎を部活から学ぶことができたと思います」

—やりがい

「助かったよ」とか『ありがとうございます』という言葉をいたたくとやりがいを感じます。心配事があって相談に

来た市民の方が、安心した表情で帰るときもうれしいですね。ここまでいつも人対人のサービスに変わらないので、市役所の人間として恥ずかしくないコミュニケーションを意識しています」

お客様が抱える課題の解決に貢献。
プログラム開発を通し、

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→電気電子工学系の大学に進学→プログラムについて学ぶ→エンジニア派遣サービスをおこなう企業に就職→システムエンジニア

います」



岡崎翔平さん(1993年生まれ)

刈谷北高校 出身
鳥取大学大学院 工学専攻修了

株式会社メイティック

東京都台東区上野1-1-10 オリックス上野1丁目ビル
<https://www.meitec.co.jp/>

ー学生時代

「高校時代はラグビー部に熱中しました3年間です。部長を務め人を動かすこと、まとめることが難しさを実感しました。大切なのは、相手のやりたいことの中に自分のやろうとしていることを混せて折衷案を作ること。これは、部活以外でも役立っている場面が多いです。中学生のときにASIMO(二足歩行ロボット)を見て衝撃を受け、自分も作ってみたいと思ったのが鳥取大学電気情報系学科に進んだきっかけです」

ー大学時代について教えてください。

「オームの法則や電気回路、プログラムについてなど電気電子工学の基礎を学びました。光の屈折を利用した光ファイバーの実験もあり、おもしろい実験が多かったです。特にすごいかったのは発電機を使った空気の絶縁実験。空気の層に稻妻が走る光景は圧巻でしたね。脳波情報から人間由来の電気信号を研究し、国際学会で発表するという貴重な経験をすることができました」

ー仕事について

「大学院修了後は、メイティックに就職しました。メイティックはエンジニア派遣サービスをおこなっているので、いろいろな事業に携わって経験を積めるところに魅力を感じました。現在は、入社5年目です。システムエンジニアとして、C#などの言語を使ってプログラム開発をおこない、製造現場のDX化を進めています」

重要な仕事だと思います」



ーメッセージ

「みなさんには『あのとき、やつておけばよかった…』という後悔はしてほしくないので、失敗してもいいから何事にも挑戦してみてください。あと、英語は必須で勉強しておいてほしいです。私は大学に入つてからプログラムについて専門的に学びましたが、システムエンジニアをめざすならPythonやC言語などの携帯電話で写真が撮れるのもプログラムによるものですし、電気がつかるものも空調が動くのもすべてプログラム。プログラムは、みんなさんの生活の一部になっているのです。私の仕事は、様々な作業を自動化して作業効率を上げ、ヒューマンエラーを減らす。プログラムを開発すること。開発の際は、実際にプログラムを誰が使うのか、現場の人のことを想像するよっ心がけています」

ーやりがい

「開発したプログラムを何千人といふ人が使っている状況を見ると、やりがいを感じます。みなさんの作業環境がよくなっていることを報

告されるところらしいですね。常にエラーとバグとの戦いで完成まで大変な道のりですが、その分やりがいも大きい仕事です。大学時代から

「開発したプログラムを何千人といふ人が使っている状況を見ると、やりがいを感じます。みなさんの作業環境がよくなっていることを報告されるところらしいですね。常にエラーとバグとの戦いで完成まで大変な道のりですが、その分やりがいも大きい仕事です。大学時代から

18歳

24歳

29歳

部活に熱中した3年間。高校卒業後は、鳥取大学へ進学。

卒業研究は脳波をテーマにおこなう。大学院修了後、メイティックに就職。

様々なプログラム開発をおこない、製造現場のDX化を進める。



貢献年



先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

お客様の要望通りに荷物を送れたときは、
大きな達成感を覚えます。

なるためには

- 必要資格 / 貿易実務検定 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→貿易実務検定を取得→物流関係の企業に就職→営業部に配属



岩瀬瑞生 さん(1995年生まれ)

豊橋南高校 出身
愛知淑徳大学 交流文化学部卒業

トピー海運株式会社

豊橋市神野ふ頭町3-15
<https://www.topy-kaiun.co.jp/>

ー学生時代ー

「高校時代は3年間テニス部に所属しました。みんな仲がよく、楽しく部活に取り組んだことが思い出になっています。協調性などを自然と学ぶことができ、仲間には感謝しています。旅行や観光のスケジュール作成が好きだったので、観光プランニングについて学べる愛知淑徳大学交流文化学部に進学しました。また、K-POPが好きなことがきっかけで韓国語も勉強し、半年間の留学を経験しました」

今 の仕事に就いた経緯は?

「就職活動は観光業界と海運業界で迷っていました。父が海運会社で働いており、父や父の仕事関係の方から聞く話から、海運業界にも惹かれていました。悩んだ結果、海運会社のほうが私に合っていると感じ、総合物流サービスを展開するトピー海運に入社しました」

ー仕事についてー

「簡単に説明すると、自動車ホイールの入出庫の管理が私の仕事です。親会社が製造した自動車ホイールを自社倉庫に入れて梱包し、お客様の要望に合わせて出荷の準備をします。また、梱包する製品の計画を立てたり、お客様の要望に合わせてトラックの手配や配達準備などもおこないます」

仕事をするうえで必要な資格はありますか?

「貿易実務検定という資格があります。海運関係に就くのであれば、貿易実務の知識習得にも一役買つ

「輸出の際に必要となる書類の作成を手伝うこともあります。もともと海運会社に入りたかったという経緯があるので、輸出関係の資料を作っているときは『貿易に関わる仕事をできている』という充実感を得られます。また、冬場にかけてはスタッフレスタイヤのホイールの注

文が殺到します。多様な注文があるなかで、自分で仕分けをして、お客様の要望通りに荷物を送れたとき

ありがとうございます!



うえたときはうれしくなります。そういう積み重ねが、やりがいにつながっています」

ーメリセージー

「特別な勉強は必要ありませんが、高校時代の経験と出会いは、かけがえのないものばかりです。みなさんも、今ある時間と友達を大切にして、楽しい高校生活を過ごしてください!」

18歳 テニス部の活動を通し、協調性などを養う。愛知淑徳大学へ進む。

22歳 在学中に韓国留学を経験。大学卒業後は、トピー海運に就職。

27歳 自動車ホイールの入出庫の管理を担当。お客様の要望を実現できるよう仕事に取り組む。



先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



幼いころからの憧れを仕事に。
大好きな自動車に触れながら楽しく働く。

なるためには



- 必要資格 / 自動車整備士
- 主な進路 / 高校卒業→自動車整備士課程のある短大に進学→2級自動車整備士資格取得→1級自動車整備士課程のある大学に3年次編入→自動車販売店に就職

朝岡優太 さん(1994年生まれ)

安城南高校 出身

愛知工科大学 工学部機械システム工学科卒業

名古屋スバル自動車株式会社

名古屋市北区落合町233

<https://www.nagoya-subaru.co.jp/>

「高校時代の思い出は部活動。ハンボール部に入部し、厳しい練習を最後までやり通すことができたことは今でも大きな自信になります。実家が自動車部品の工場を営んでいることもあり、幼いころから自動車と触れる機会も多く、自然と将来は自動車に携わる仕事に就きたいと考えるようになりました。自動車整備士という目標を掲げ、愛知工科大学自動車短期大学へ進学。その後、1級自動車整備士の資格を取得するため、愛知工科大学に3年次編入をしました」

「大学時代について教えてください。」
愛知工科大学の魅力は、最新の設備が整っていることと、各自動車メーカーから提供された実際に販売されている自動車を使用した授業を受けられることです。就職後、即戦力として活躍できる知識や技術を学べたことがうれしかったですね。授業以外では、プロのドライバーの方と一緒に軽自動車の耐久レースに出場できたことが一番の思い出です。まわりに自分と同じようないで、自動車を好きな仲間がたくさんいるので毎日が楽しかったです」

――仕事について――

「愛知工科大学の魅力は、最新の設備が整っていることと、各自動車メーカーから提供された実際に販売されている自動車を使用した授業を受けられることです。就職後、即戦力として活躍できる知識や技術を学べたことがうれしかったですね。授業以外では、プロのドライバーの方と一緒に軽自動車の耐久レースに出場できたことが一番の思い出です。まわりに自分と同じようないで、自動車を好きな仲間がたくさんいるので毎日が楽しかったです」

――やりがい――

「自動車の点検や修理、付属品の取り付けなどです。こだわっていることは、お客様から自動車を預けられたときよりも必ず良い状態にしてお返しすることです。憧れのスバル車に触れながら働くことができる」

「――やりがい――」
「自動車の点検や修理、付属品の取り付けなどです。こだわっていることは、お客様から自動車を預けられたときよりも必ず良い状態にしてお返しすることです。憧れのスバル車に触れながら働くことができる」

「――やりがい――」
「自動車の点検や修理、付属品の取り付けなどです。こだわっていることは、お客様から自動車を預けられたときよりも必ず良い状態にしてお返しすることです。憧れのスバル車に触れながら働くことができる」



「名古屋スバル自動車に入社したきっかけは、父がずっとスバル車に乗っていたこともあり、自分自身もスバル車が好きだったこと。また、自分が入社する年に会社内のサークルで自動車部が発足し、カーレースの大会に参戦するという話を聞きました。」



直轄店

17歳

↓

21歳

↓

28歳

ハンドボール部に所属し、毎日厳しい練習に取り組む。実家の影響もあり、自動車整備士が目標に。

愛知工科大学工学部1級自動車整備士養成課程に編入。

憧れのスバル車の自動車整備士として、幼いころから大好きだった自動車に触れながら楽しく過ごす毎日。

「高校時代は時間がたくさんあると思うので、その時間をいかして過ごしてもらいたいです。部活でも勉強でも趣味でも何でもいいので、何かひとつでも没頭できることや夢中になれるを見つけてそれに取り組んでください。なりたい仕事や進学先で学びたいことが決まっているのであれば、その目標に向かって精一杯頑張ってもらいたいです。愛知県は自動車産業が盛んなので、自動車に関する知識や技術を学ぶ道に進むことは、就職の強みになると思いますよ」

ありがとうございました。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





徳田 湊乃さん(2002年生まれ)

安城高校 出身

慈恵歯科医療ファッショント専門学校 卒業

安城更生病院

安城市安城町東広畔28
<https://anjokosei.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 診療報酬請求事務能力認定試験
- 主な進路 / 高校卒業→医療事務学科のある専門学校に進学→専門知識を学ぶ→診療報酬請求事務能力認定試験に合格→病院に就職

「高校時代の思い出は友達と遊んだこと。よく喋るタイプだったので、いつも盛り上がっていました。情報処理コースを選択していたこともあり、学んだ知識をいかせる医療事務員を目指すようになりました。少人数制で親身にサポートしてくれるところに魅力を感じ、慈恵歯科医療ファッショント専門学校に進学しました。実際に先生とも仲よくなつて、何でも気軽に相談できる環境でした」

――仕事について――

「座学では、カルテを確認し、医療保険制度に従つてレセプト作成をする業務について学びました。そのほかは医療保険について、診察内容や検査内容、薬の処方など医学の知識も学びます。病院実習では、机上で学ぶ知識以上にコミュニケーション力の大切さを実感しました。笑顔を絶やさずに相手の目を見て話すこと、寄り添って話を聞くことの大切さを学びました。在学中に取得した資格は、医科医療事務検定、医師事務作業補助技能認定、医事コンピュータ技能検定、医療秘書技能検定など、ほかにも医療事務員に必要な多くの資格を取得しました。合格率3割ほどの難関といわれる診療報酬請求事務能力認定試験に合格することもできました」

「やりがいを感じるのは、患者さんの問い合わせにスムーズに対応できとき。「ありがとうございます」という言葉をいただけることがうれしいです。問い合わせに対し、先輩に聞かず自分で考えて答えられることが増えたりと成長を感じる場面も多いです。今後はもっと知識や経験を増やし、何でも答えるられて誰からも頼られる医療事務員が目標です」

「専門時代について教えてください。」

「座学では、カルテを確認し、医療保険制度に従つてレセプト作成をする業務について学びました。そのほかは医療保険について、診察内容や検査内容、薬の処方など医学の知識も学びます。病院実習では、机上で学ぶ知識以上にコミュニケーション力の大切さを実感しました。笑顔を絶やさずに相手の目を見て話すこと、寄り添って話を聞くことの大切さを学びました。在学中に取得した資格は、医科医療事務検定、医師事務作業補助技能認定、医事コンピュータ技能検定、医療秘書技能検定など、ほかにも医療事務員に必要な多くの資格を取得しました。合格率3割ほどの難関といわれる診療報酬請求事務能力認定試験に合格することもできました」

「――仕事について――」

「高校時代の思い出は友達と遊んだこと。よく喋るタイプだったので、いつも盛り上がっていました。情報処理コースを選択していたこともあり、学んだ知識をいかせる医療事務員を目指すようになりました。少人数制で親身にサポートしてくれるところに魅力を感じ、慈恵歯科医療ファッショント専門学校に進学しました。実際に先生とも仲よくなつて、何でも気軽に相談できる環境でした」

――学生時代――

――メソセージ――

患者さんと最初に顔を合わせる仕事。



18歳 医療事務員を目指し、慈恵歯科医療ファッショント専門学校に進学。

19歳 医療保険やビジネスマナーなど、幅広く医療事務員としての基礎を学ぶ。

20歳 安城更生病院に就職。常に笑顔を絶やさず、窓口で患者さんを対応する。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



「難関試験ですが、診療報酬請求事務能力認定試験合格を目指してください。まずは専門学校に進学し、医療事務員として必要な専門知識や医療制度、実務的なパソコン技術を勉強することが一般的ですね。学校選びに関しては、勉強面だけでなく、学校生活をしっかり楽しめる学校を選んでください。私は学校行事が充実して、いたり学校の雰囲気に入れて、慈恵を選択しました。高校時代は、勉強もしつつ、いろんな友達と遊んで、コミュニケーション力を養つておいてください！」

「ありがとうございました。」

涼風を送る。

安全・快適に自動車を利用できるよう

なるためには

- 必要資格 / 特になし
 - 主な進路 / 高校卒業→自動車部品の製造・販売をおこなう企業に就職→技能専修学園で技能と知識を学ぶ→様々な資格を取得→製造現場に配属



中島 隆寛 さん (1990年生まれ) 豊田工科高校 出身

株式会社豊田自動織機
刈谷市豊田町2-1
<https://www.toyota-shokki.co.jp>

ました。職場で酒呑も根性も資格も
取得することで、できる仕事の幅が
広がり、自身の成長を実感していま
す。高校生のときは問題が起きた
ら親が責任をとることが多いと思
いますが、社会人になるとそうはい
きません。自分は豊田自動織機の一
員であるという自覚をもつことで、会
社の看板を背負っているという意
識をもつことの大切さを、配属後に
上司から教わりました」

「まず1年かけて技能専修学園で基礎技能と精神力を鍛えられ、その後、現場に配属されました。技能専修学園では、旋盤やフライス盤を使った加工技術、ガス溶接やアーチ溶接などを学んでいきます。有機溶剤業務、特定粉じん作業者、振動工具取扱作業者などの資格を取得し

人柄もよかつたので、ここなら楽し
く働けると思い、高校卒業後は豊田
自動織機に就職しました」

一仕事について

「暑い国でも寒い国でも、安全・快適に自動車を利用できるよう涼風を送る。そのための装置を製造しています。自分が携わったコンプレッサーの自動車が走っている姿を見たときはうれしい気持ちになります。また、不具合を調査して対策し、結果が生産数など目に見えるかたちで表されたときもうれしいです」

が仕事です。心がけているのは、「安全第一・品質第二・生産第三」。生産への焦りをおさえ、安全と品質を優先することが結果的に効率的な生産につながることを、日頃から職場で伝えるようにしています」

ます。設備が常に正常に動くよう支えをしたり、人材育成をしたりするなど、作業者が安全に高精度なモノづくりができる環境を整えています。

仕事内容について教えてください

「カーランド内的心臓部に当たる
のが電動コンプレッサー。その電動
コンプレッサーを駆動させるモー
ターの組み立てをしています。様々
な素材を加工し、組み付けてモー
ターを作っていくのですが、私はそ



18歳 デュアルシステムを利用し、週1日豊田自動織機に通う。

19歳 豊田自動織機に就職。技能専修学園で、加工・溶接技術、知識を学ぶ。

 32歳 コンプレッサーのモーターの組み立てを担当。ドライバーが快適に自動車を利用できるよう日々の仕事に励む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



—メッセージ

※学校と企業が連携し、毎週1日企業へ出向いて実践的な就業訓練を受ける教育システム

学生 一人ひとりが

将来を思い描けるような言葉で伝える。



井上紗也香さん(1997年生まれ)

知立東高校出身
名古屋大学 文学部心理学科卒業

株式会社バロー

名古屋市中村区名駅南1-16-21名古屋三井物産ビル3F
<https://valor.jp/>

なるためには

●必要資格 / 特になし
●主な進路 / 高校卒業→大学に進学→スーパー・マーケットを開設する企業に就職→店舗に配属→人事採用部に配属

ー 学生時代

好きなことに熱中するタイプで、中学は陸上部、高校は友達と遊んだり勉強したりする時間が多かったです。分野は問わず新しい知識が増えることがうれしくて、勉強が趣味のよくな感じでしたね」

大学時代について教えてください。

「名古屋大学心理学科に進学しました。ラットを対象に実験をしてデータを取り、結果からどのような見解が得られるかを研究しました。あとは学生団体に所属し、オープンキャンパスなどのイベントを企画・運営したこと思い出に残っています。どうすれば新入生の不安がないとなるかを考え、様々な企画を提案しました。目標に対してどうアプローチするべきかを考え、コミュニケーションをとっていく経験は採用の仕事でもいかせていました」

ー 仕事について

「就活の軸にしたのは、第一に地元の企業。あとは、結婚出産をしたとき状況に合わせて働き方を変えられるかどうか。ホールディングスという体制をとっていて、安定性もあります。新事業に携わっていけることも魅力を感じ、東海を中心に230以上の店舗をもつスーパー・マーケット「バロー」に就職しました」

ー 入社当初について教えてください。

「店舗の雰囲気やどんなお客様が来ているのかを知るため、1年目は店舗配属からスタートすることが多いです。私は店舗でパンを作っていました。先輩からは、作業スピード

よりも、まわりがどんな仕事をしているか、どんな流れで仕事が進んでいますかを把握しながら働く大切さを教わりました。現在は、人事部で採用関係の仕事を担当しています」

ー 仕事内容について教えてください。

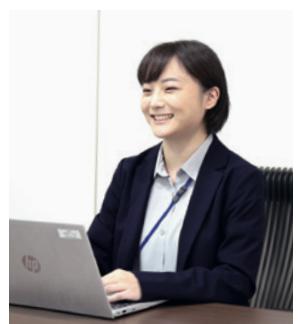
「学生一人ひとりが自分の将来を思って、活動をおこなっています。具体的に活動をおこなっています。良い悪いではなく、会社に合っているか、継続的に働けるかなどを考えながら採用活動をおこなっています。具体的には、インター・ンシップの受け入れ、会社説明会や面接、内定者の入社までのサポートなどをおこなっています。入社してほしいという気持ちが強すぎて、良いところばかり伝えてしまふとミスマッチにつながってしまいます。良いところも悪いところも含めて、学生に伝わる言葉でのアプローチを大切にしています」

ー やりがい

「やりがいを感じるのは、私の説明や面接で不安を解消でき、学生が入社を決意してくれたとき。今後、新入社員のみなさんが楽しく働ける環境を整え、成長する姿や活躍する姿を見るのが楽しみです！」

ー メッセージ

「人事の仕事は、資格よりもコミュニケーション力が重要です。ただ、相手の話を聞く力、情報を伝える力、どちらかだけが多くてもダメだと思います。バランスよく相手に合わせたコミュニケーションが大事です。学生時代にいろいろな人と接点をもち、人間力とコミュニケーション力を養っておいてくださいね。学生時代は自由な時間が多いので、そのときしかできないことに挑戦してください。思い立つたら吉日。やってみたいと思ったことは、すぐ行動に移してください！」



18歳

新しい知識が増えることによろこびを感じ、勉強に打ち込む。

↓
22歳

名古屋大学に進学。学生団体での活動を通してプロジェクトの進め方などを学ぶ。卒業後、バローに就職。

↓
24歳

人事部で採用を担当。新入社員が楽しく働け、成長できる環境を整える。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



自分ひとりでは困難な状況でも、仲間と協力することで大きな力を発揮。



なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学→裁判所職員採用試験に合格→内部試験に合格して裁判所職員総合研修所で研修を受ける→裁判所書記官

川口将人さん(1993年生まれ)

時習館高校出身
大阪大学 法学部卒業

名古屋地方裁判所

名古屋市中区三の丸1-4-1
<https://www.courts.go.jp/nagoya/>

「陸上部に所属し、厳しい練習を仲間と励まし合いながら乗り越えた経験が思い出に残っています。周りのサポートがあって、自分の力が最大限発揮できるのだと感じました。この頃から、誰かの支えになれるような仕事に興味を持ち始めました。高校卒業後は大阪大学法学部に進学。法律はもちろん、政治経済、国際問題など幅広く学びました。社会の仕組みを学ぶ中で、社会全体に関わることのできる国家公務員の仕事を興味を持ちました。3年次から予備校に通つて試験対策を受け、裁判所職員採用試験に合格しました」

――仕事について――

「1年目は人事課で職員の採用に関する仕事を担当し、試験会場の準備や面接の案内等に向けた採用広報等の案内をしていました。大切だと感じたのは、自分で仕事を成り立つているのではなく、相手がいるということ。相手の立場に立つて説明をするように意識しています」

書記官への道のりとは?

「裁判所での内部試験に合格後、法学部卒業生は約1年間、書記官になるための研修を受けます。研修では、訴訟法を中心に実務が必要な法律の知識・考え方を学びます。出された課題について研修生同士で議論をしたり、模擬裁判が行われたりなど実践的な内容の研修でした。裁判に立ち会い、法廷でのやりとりを記す調書を作成することが大

きな仕事のひとつ。私は刑事裁判を担当しているので、検察官・弁護人の発言や目撃者などの証人の尋問を記録していく。調書は、裁判が行われたことを証明する重要な文書です。ほかには、裁判官・弁護人・検察官の間に立つて、スケジュール調整や裁判の進行管理をするなど、裁判がスムーズに行われるよう、様々な調整をする潤滑油のような役割をしています。様々な立場の人ができる中で裁判が進むので、中立的に物事を考えたり、分かりやすい説明をすることを心がけています。どのような準備をすれば裁判が充実したものとなるかを意識して、仕事を取り組んでいます」

――やりがい――

「裁判は、人の人生に大きく関わるような重要な場面です。そのため責任感をもって仕事をすることができます。書記官として、一つの事

件について最初から最後まで関わることがでできることも大きなやりがいです。困難で複雑な事件を担当したときに周りの書記官や裁判官と議論をしたり、文献を調べたりして、手続きを進めていく。裁判が終



――メッセージ――

「裁判所職員採用試験に合格して経験を積み、内部試験に合格すると裁判所職員総合研修所で書記官になります。裁判所には、裁判官・上司や先輩など、いろいろな知識・経験をもっている人がたくさんいるので、自分が次第で様々な知識を吸収することができます。学びをサポートする環境が整っているので、真面目に勉強・努力する姿勢をもっている人であれば、自身を大きく成長させられますし、活躍できる業界だと思っていますよ」

ありがとうございました。



18歳 陸上部に所属し、仲間のサポートが最大限の力を引き出すことを実感。

23歳 法律、政治経済など幅広く学ぶ。裁判所職員採用試験に合格。

29歳 裁判所書記官として、裁判がスムーズに充実した内容で開かれるよう日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>





丹羽哲也 さん(1992年生まれ)

愛知産業大学三河高校 出身

中部大学 生命健康科学部スポーツ保健医療学科卒業

岡崎市消防本部

岡崎市朝日町3-4

<https://www.city.okazaki.lg.jp/1100/1113/1176/syoubou-copy.html>

**原動力は、人の役に立ちたいという
シンプルな気持ち。**

— 学生時代 —
小学生のときにサッカーを始め、高校・大学でもサッカーに熱中しました。つらいこともたくさんありました。上下関係や規律を叩き込まれ、部活をやってよかつたと思いう場面も多いです」

大学時代について教えてください。

中部大学スポーツ保健医療学科に進学しました。スポーツインストラクター・救急救命士の勉強ができる学科です。1年次は、運動について、身体の仕組みや解剖学など医療関係の授業を受けました。その後で医学・療法分野に興味を持ち、救急救命士コースを選択したのがこの仕事に進むきっかけです。現役救急救命士の方が講師として来てくださいました。胸骨圧迫(心臓マッサージ)や気管挿管(点滴など基礎となる処置について学びました)

●必要資格 / 救急救命士

●主な進路 / 高校卒業→大学に進学→国家試験に合格し、救急救命士を取得→地方自治体が実施する消防職員採用試験に合格→消防学校に入校→各消防署に配属→救急救命士

なるためには



— 仕事内容について教えてください。 —
消防士の仕事は、「警防」「消火」「救助」「救急」に大きく分かれています。現在私は救急救命士として活動しています。救急車に乗って出場して、救急車に乗って出場して、現役救急救命士の方々が講師として来てくださいました。胸骨圧迫(心臓マッサージ)や気管挿管(点滴など基礎となる処置について学びました)

— メッセージ —
「まず、各自治体の消防職員採用試験に合格する必要があります。国家資格である救急救命士は、事前に取得する人もいれば働きながら取得する人もいます。私は大学で取得して入署ましたが、現場経験を積むために1年目は警防の仕事を経験しました。2年目から救急隊員として救急救命士の補助をおこない、4年目に運用試験に合格して、救急救命士として現場に出られるようになりました。救急現場も対人の仕事。学生生活を通してコミュニケーション力を養つておいてください」

— 心がけていることは? —
「傷病者にフォーカスしてまわりが見えなくなってしまわないよう、冷静でいることを心がけています。緊迫した現場ほど、家族がパニックに陥っています。処置内容や状況をていねいに説明し、落ち着いてもらえるような対応を心がけています」

— 仕事について —
最初の半年間は消防学校で消防の基礎を学びました。ホースの持ち方や延ばし方、火元に対する放水の仕方などから、規律やチームワークまで幅広く消防士としての基本を叩き込まれます

— 仕事について —
実習初日に心肺停止状態の方が運ばれてきて、医師の指示のもと、私も胸骨圧迫を手伝いました。そのときの体温、家族からの「ありがとうございます」という言葉は今でも忘れられません。そこでスイッチが入り、「救急救命士になりたい!」という思いが強くなりました

— やりがい —
「ありがとうございました」と、直接お礼の言葉をいただけることがやりがいですね。これまで何百件もの現場を対応してきましたが、たまに救急車で運んだ方に街で会うことがあります。『元気そうですが、かつた!』とうれしくなります



18歳

サッカーに熱中した青春時代。中部大学に進学し、救急救命士を目指す。

↓
22歳

1年目は警防の仕事を経験。4年目から救急救命士として活動を始める。

↓
30歳

熱い気持ちをもちつつ、常に冷静に日々の仕事と向き合う。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>